

ビジネス文章・技術文章の正しい書き方【会場・オンライン同時開催】（4126108）

ビジネス文は簡潔・的確に伝えなくてはなりません。書き方にはルールがあります。構成の仕方にも標準的な形式があります。文章が書けるとは、自分で自分の文章を適切に直せることです。それを可能にするための講座です。この講座で、文法分析と標準形式での構成方法を学びましょう。

開催日時	2026年8月4日(火) 10:00-17:00
JUAS研修分類	ビジネススキル(ビジネス・コミュニケーション)
カテゴリー	業務遂行スキル 専門スキル
講師	丸山有彦 氏 (myコンテンツ工房代表：業務改革・文書コンサルタント) 1962年生まれ。専門学校にて講義およびテキスト作成に従事。同時に歴史研究者に師事し基礎研究法を学ぶ。その後、失語症の言語訓練を研究、渋谷失語症友の会副会長。訓練法を子供の作文指導、職業訓練に応用。その経験から新しい日本語の文法を構築する。現在、企業向けにビジネス文書、文章の指導を行っている。myコンテンツ工房代表。渋谷油絵教室代表。 ブログで情報発信をしております。 ご興味ある方はご覧ください。 http://mycontentslabo.com/
参加費	JUAS会員企業/ITC : 35,200円 一般 : 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)
対象	正確な日本語の書き方を学ばれたい方 初級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

【選べる受講形態】

A. 会場にてご参加

B. オンラインにてご参加：【セミナーのオンライン受講について】

■テキスト

A. 会場にてご参加：当日配布

B. オンラインにてご参加：開催7日前を目途に発送（お申込時に送付先の入力をお願いします）

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

◆当講座はオンライン参加も可能な講座となります ◆

文章を書くとき何に困るかを聞いてみると、答えはシンプルです。「何を書いたらよいかかわからない」「どう書いたらよいかかわからない」という答えで、ほぼ尽きています。さらにビジネス文の書き方について、習ったことがないという話になります。ビジネス文は簡潔・的確に伝えなくてはなりません。書き方にはルールがあります。構成の仕方にも標準的な形式があります。文章が書けるとは、自分で自分の文章を適切に直せることです。それを可能にするための講座です。

日本語はすべての学問を記述できるグローバル対応のできた言語です。しかし記述の仕方についての教育が遅れてきました。ビジネスの進展で文章が書ける人が必要になった時、英文法が一気に普及しました。日本語には、まだそうした機能を持つ文法がありません。文章構成にしても、国際的に通じる文章の書き方のトレーニングが十分になされていません。この講座で、文法分析と標準形式での構成方法を学びましょう。

<内容>

1 文章のトレーニング方法

- [1] 法律学の記述方法から学ぶ
- [2] ビジネス文・技術文を書くための原則
- [3] ビジネスの成立と文章：歴史的経緯
- [4] ミクロとマクロのアプローチ

2 標準形式の構成

- [1] 逆ピラミッド形式と「起承転結」
- [2] 文章構成のトレーニング：社説を検証
- [3] 逆ピラミッド型の失敗事例
- [4] メールでの逆ピラミッド構造

3 マクロのアプローチ

- [1] 形式からのアプローチ
- [2] 内容の確認：事実と解釈
- [3] マネジメントからのアプローチ
- [4] 書くための基本的な方法

4 文章の素材と構成

- [1] メモの取り方：文章には素材が必要
- [2] 本の読み方：ノートの作り方
- [3] 「構造化」と「知識化」
- [4] 構成メモから文章構成へ

5 センテンスのルール

- [1] 特集記事の問題点：文章読本のアプローチ
- [2] アミラーゼ問題：通説的な日本語文法の問題点
- [3] 優秀と言われた社員の困った文章
- [4] 日本語センテンスの基本構造

6 日本語の文法

- [1] 日本語の要素と助詞の構造
- [2] 日本語の構文：文末の4系統
- [3] 「は・が・を・に・で」と「の・と・へ・も」
- [4] 自説の必要性：主体者・当事者の問題

7 グローバル化時代の記述

- [1] 翻訳に堪える日本語
- [2] 電子化による読まれ方の変化
- [3] 生成AIの文章を超える：得意と苦手
- [4] 自分の文章を修正するルール

<参加者の声>

- ・普段あまり意識しない主体と文末について助詞の使い方や意味について知ることができた。
- ・文章の修正をする際、感覚で行っている部分もあったが、今回の研修を受講して構成や助詞の使い方など学ぶことができた。
- ・ミクロの視点での説明がためになった。
- ・普段使っているからこそ省略してしまっている箇所や、逆に無駄な言葉が無い意識する良いきっかけになった。